



昭和第一学園後援会報
令和7年12月15日(2025年)

菊葉リレーションズ

ーイギリスロンドン海外研修ー

デザインコースコース長 吉田康平

2025年8月1日～7日にかけて、デザインコースの希望者を対象に初めての海外研修旅行を企画し、ロンドンに赴きました。イギリスは産業革命やアーツクラフツ運動など、デザインの文化と深い関わりを持ち、デザインコース生徒にとってこれからの自分のキャリアをイメージさせる最適の国と言えます。

大英博物館、テートモダン、サーチギャラリー、V&A博物館、自然史博物館、科学博物館、デザインミュージアムを訪問しました。初めて訪問する教科書の中で見たことのあった博物館を生徒達はとても楽しんでおりました。グループ散策では、自分たちだけでカフェに入って食事をしたり、ショッピングをしたりと、刺激的な研修旅行となったようです。

今回、大切なのは実際に海外へ行って、その空気を直接肌で感じることであったと思います。海外のデザインやその文化は元より、異国の様々な背景を持つ人々、日本との違いを体感することは将来デザイナーを目指す生徒にとって貴重な経験となったはずです。デザインコースの生徒はデッサンなどこれまでの実技の学習を通して、見えているけど見えない世界、見ようとしても見えてこないものがあることを知っています。今はまだ言語化できない感情や体験も、これからの人生のどこかで何かに繋がってくれることを願います。

参加した生徒達が描いた海外研修旅行のレポートが本館2Fエレベーター前に掲示してありますので、是非ご覧ください。(写真)



ーオーストラリア、カナダ海外語学研修ー

国際教育推進センター 北村信一・山館香菜

貴会よりご高配を賜り、おかげをもちまして8月2日～8月12日11日間バンクーバー、8月9日～8月23日オーモウ(Ormeau)高校、プログラムを無事終えることができたことの報告と同時に、参加生徒の大きな心の成長の一端を披露させていただきます。

カナダ研修感想文

1年4組 増田 杏

私はこのカナダ留学を通して、異文化理解、多様性への寛容さ、自分から行動することの大切さ、コミュニケーション力、問題解決力など、本当に多くのことを学びました。今回はその中でも、「多様性への寛容さ」と「自分から行動することの大切さ」についてお話ししたいと思います。

まず、多様性への寛容さについてです。カナダでは、さまざまな背景を持つ人々が共に生活しており、文化や価値観、見た目や考え方が非常に多様でした。特に語学学校では、世界中から来た学生たちと交流する機会がありました。

同じクラスにいた韓国の学生と、日本と韓国の学校行事の違い、例えば体育祭や文化祭について話し、お互いに驚いたり感心したりしました。こうした交流を通じて、違いを楽しむことの大切さを学びました。また、街を歩いていると、服装などから一人ひとりの個性が強く感じられました。日本では少し奇抜に見えるような格好をしている人もいましたが、カナダではそうした服装も自然に受け入れられていて、それぞれが自分の好きなスタイルを楽しんでいるように見えました。もちろん、日本の「協調性を大切にする文化」も素晴らしいと感じていますが、それと同時に「個性を尊重すること」の大切さを改めて実感しました。髪の色や肌の色、見た目だけで人を判断せず、その人の中身や行動を見て評価するという文化が、カナダではより根づいているように感じました。

次に「自分から行動することの大切さ」についてです。言葉や文化の壁がある中で、黙っているだけでは何も始まりませんでした。自分から話しかけたり、質問したり、助けを求めたりすることで、相手との距離が縮まり、少しずつ自信もついてきました。初めは勇気がいりましたが、行動することで得られるものの大きさを実感しました。

例えば、学校帰りにみんなでマクドナルドに寄った時のことです。セルフレジを使った際、レシートが出てこないというトラブルがありました。レシートに記載された番号が呼び出しに使われるため、それがないと自分の注文が呼ばれても分からないという状況に陥りました。

私は近くにいた店員さんに声をかけてみました。日本なら、店員さんが最初から一緒に対応してくれることが多いと思いますが、カナダではそうではありません。最初に聞いたときは、レジの方を指さされただけで、説明はほとんどありませんでした。ですが、それでは理解できなかったため、もう一度勇気を出して質問しました。すると、今度は丁寧に教えてくれました。この経験を通して、「わからないことをそのままにせず、わかるまで聞くこと」「助けを求める勇気」がとても大切だということを学びました。

このような経験を通して、今後は日本だけの考え方も忘れずに、海外の個性を尊重する価値観も自分の大切な財産として今後の生活に取り入れていきたいと思っています。



カナダ バンクーバーガスタウン



オーストラリア オーモウ高校

オーストラリア研修感想文

2年4組 中村 帆乃夏

この二週間新しい経験ばかりで毎日が刺激的でした。海外に行くことも初めてだった私は、オーストラリアで生活をする中で日本との違いを感じるが多々ありました。

しかし、この経験は私の人生においてとても大事で記憶に残るものとなりました。私がこの留学研修プログラムに参加した理由は、主に二つあります。

一つ目は、自分の英語力をもっと上達させたかったからです。もともと「英語」の曲を聴いたり、映画を観たり、英語を使うことが好きだったので、日本での授業だけでなく、実際に英語を使う環境に行ってみたかったです。また海外の日本と異なる文化や習慣にとっても興味があったので、実際に行ってこの身で体験してみたいという思いが強かったです。

二つ目は、将来「英語」を使った国際的な仕事に就くことに憧れがあるからです。まだ、具体的な仕事や実際にそのような仕事に就くか決めているわけではありませんが、実際に海外に行ってみることで、進路や将来への考え方が広がると考えました。

実際にオーストラリアでホストファミリーの家やお店、学校などで、日本との文化や習慣の違いを沢山感じました。まず家ではお風呂を5分で済ませないとい

けなかったり、学校では2回もお昼ご飯の時間があることにとても驚きました。ランチボックスも日本ととても異なっていて、スナックが沢山入っていて果物が丸々入っていました。

インテグレーションや英語の授業では自分の英語力のなさを痛感しました。自分が言いたいことを文として作れなかったり、単語が分からないことがありました。ランチの時間ではバディやその友達と食べましたが、何を言っているのか理解できないこともあり、悔しい思いをしました。その中でも好きな曲の話や学校の話などをして楽しく会話ができた時は達成感があって嬉しかったです。

ホストファミリーの家では、家族の人数が多かったのでもろんなコミュニケーションがとれました。休みの日や放課後にはショッピングや馬に餌をやりに行ったり、鶏を抱っこしたり、公園に行ったりといろんなところに連れて行ってくれました。最終日には日本に帰りたくないなと思ってしまうくらいに、バディやホストファミリーと仲良くなったことの喜びと同時にとても悲しい気持ちになりました。

私はこの留学を通して、人間関係の大切さを得ることができました。言語の壁を越えて交流できました。分からない言葉を教えてくれたり、道を教えてくれたりバディやホストファミリーはもちろん現地の学校の生徒たちも優しく支えてくれたので、支え合うことの大切さを実感しました。

そして積極性や自立心が成長したと思います。初めは緊張してしまい、あまり自分から話しかけられませんでした。だんだんと自分から質問をしたり会話をする勇気を持てるようになりました。また家族のいない環境で生活をする中で、時には学校で日本人の友達がいない一人の時などで、自分で考えて行動する力が育ったと感じました。自分の言いたいことが十分に表現できず悔しい思いをしたので語彙や表現をさらに増やす必要があると思いました。

これからは継続的に英語の勉強や英検取得のための勉強を積極的にしていこうと思いました。そしてこの素晴らしい経験をさせてくださった親や先生方、全ての方々への感謝を忘れずにこの経験を将来に生かしていきたいです。

海外研修参加者名簿

学年	イギリス	学年	カナダ	学年	オーストラリア
1	牛嶋 悠賀	1	中山 仁志	1	高木 連
1	片江 葉	1	瀧谷 くるみ	1	安達 優花
1	笹谷 くるみ	1	増田 杏	2	田中 雅人
1	中村 悠人	1	高橋 陽生	2	中島 優華
1	野中 青依	1	長澤 岳	2	仁科 友佑
1	堀川 咲くら	1	清代 咲心	2	中村 帆乃夏
2	相澤 美桜	1	岡田 咲月	2	鈴木 優実
2	上原 力斗	1	矢野 楓	2	由比ヶ 伸治
2	大庭 菜綺	1	江崎 月渚	2	渡辺 直輝
2	神田 明	1	金子 明利	2	相馬 なつみ
2	佐々木 美音	1	穴原 大千里	2	安藤 嘉郁
2	佐藤 美絃	1	奥秋 愛	2	田中 開大
2	佐藤 璃音	1	宮村 希	2	中井 結
2	篠田 彩	2	宇座 元	2	遠藤 悠太
2	高橋 歩実	2	阿部 智帆	2	矢船 奏太
2	外山 綾乃	2	中島 泰輝		
2	土生 綾乃	2	植元 涼介		
2	樋田 怜采	2	小野 太		
		2	坂本 快		
		2	田中 拓輝		
		3	米山 結衣		

後援会育英事業基金
より一人50,000円
を助成しました

生徒活躍レポート 令和7年8月～11月

■ハンドボール部

- ・東京都私学高等学校大会
決勝戦対関東第一 29対13 優勝
- ・日中韓国際交流戦
鈴木和磨君(3年)出場 2勝1敗
- ・国民体育大会関東ブロック大会
中西昂君(3年)・加藤勇斗君(3年) 出場 予選敗退
- ・東京都高等学校ハンドボール秋季大会(新人戦)
対 早稲田実業 39対15 対 明星高校 32対30
対 関東第一高校 22対32 結果 第2位
2月開催の関東選抜大会の7回目の出場が決定

■サッカー部

- ・全国高校サッカー選手権東京都1次予選
1回戦 対 芦花・太島海洋・小笠原合同 12対0
2回戦 対 目黒日大高校 4対0
地区決勝 対 成蹊高校 9対0
- ・全国高校サッカー選手権東京都2次予選
1回戦 対 成城高校 4対0
2回戦 対 多摩大目黒高校 1対3 敗退
(Bブロックベスト16)

■ライフセービング部

- ・全日本ユース選手権大会
ビーチスプリント(U18男子) 5位
ビーチフラッグス(U18男子) 6位
- ・全日本選手権大会本戦
ビーチフラッグス(男子) 準決勝進出
ビーチリレー (男子) 準々決勝

■女子ダンス部

- ・町田踊り場建設プレゼント「登竜門VOL. 50」
U-18チーム部門 優勝

■陸上競技部

- ・第77回東京都高等学校新人陸上競技対校選手権大会
男子4×100mリレー 予選敗退

■男子バスケットボール部

- ・新人戦支部大会
2回戦 対 都八王子東 96対62
3回戦 対 都野津田 113対57
4回戦 対 都永山 73対55
準々決勝対 桐朋 76対59
準決勝 対 日大三 64対72 結果 第3位
新人戦本大会進出が決定(2026年1月開催)

■自動車研究部

- ・ホンダエコマイレッジ全国大会 6位入賞
- ・2025 Ene 1 MOTEGI GP 6位入賞

■吹奏楽部

- ・第65回東京都高等学校吹奏楽コンクール
東日本組 銀賞

■創作デザイン部

- ・第17回全国高等学校鉄道模型コンクール
モジュール部門 ベストクリエイティブ賞 受賞

■新聞部

- ・第41回東京都高等学校新聞コンクール優秀賞受賞
2026年度全国高等学校総合文化祭(秋田県)の参加が決定

文化祭報告

9月27日・28日の2日間、文化祭が実施されました。後援会からは、例年通り受付にて食券(400円分)を配布し、昨年同様に休憩所を設け、さくら会で作成した作品を展示致しました。更に今年は、受付の際にくじ引きを引いてもらい、当たった方には食券と制服のキーホルダーをプレゼントしました。来年度もこのような企画を実施したいと考えております。なお、2日間で配布された食券は、1,656枚でした。



後援会受付



デザインコースによる作品

昭和第一学園後援会『応援タオル』作成



笹谷くるみさんデザインのマフラータオル

昭和第一学園後援会の事業の一環として、応援用マフラータオルの制作を試みました。

学校生活の様々なシーンで頑張る生徒の皆さんを応援する際に、応援する側される側が一体感を醸成するツールとして、一目で応援されていることが伝わるデザインにしました。

制作するにあたりデザインコースの吉田康平先生と佐藤孝明先生、江川専務理事に協力して頂き、デザインコースの1年生全員に参加してもらい、応援マフラータオルのアイコンデザインコンペを開催致しました。

①昭和第一学園高等学校の生徒への応援、②一体感の醸成、③一目で応援されていると伝わるイメージの3点が入るテーマでデザインを7月末に依頼しました。夏休み中にデザインを提出してもらい、9月に選考する日程で進みました。全員の提出があり選考の結果、笹谷くるみさんの作品(写真)に決定致しました。

10月12日に行われました自動車研究部のホンダエコマイレッジ全国大会、応援ツアーに参加された方々へタオルを配布し振ったり、首に巻いたりして応援を致しました。応援のおかげで、見事6位入賞を果たしました。



応援ツアーに参加の保護者の皆様

令和7年度 後援会行事報告



『高尾山薬王院 法話と精進料理を楽しむ会』

10月26日(日) 小雨降る高尾山へ行ってきました。寒さと雨を心配しましたが、当日の欠席者もなく参加者78名となり、護摩祈祷を受け、佐藤貫首（本校卒業生）の法話を聴き、精進料理を楽しみ、心洗われるひと時を過ごしました。



法話会場の様子



杉苗料を奉納すると
一年間参道に
掲示されます



集合場所：高尾山清滝駅前

「3年間参加した高尾山」

保護者の会会長 原田 浩

今年も、高尾山薬王院で法話と精進料理を楽しむ会に参加させていただき、ありがとうございました。

保護者として、3年間参加させていただき、私にとっては1年に1度、自分を振返る時間でありました。

貫首のお話は、高尾山薬王院の位置づけを知ることが出来たこと、またご自分の職務だけでなく、地元貢献される姿が垣間見られ、昭和第一学園の誇りであると感じました。

昨年より、後援会行事の保護者の参加増を念頭に活動して参りました。今年はお陰さまで保護者の参加、特に委員ではない方、ご夫婦での参加も見受けられ、とてもよい傾向であると感じております。保護者の会の行事にお越しの方からも、後援会行事に参加したという声が増えてきております。

後援会活動に興味をもっていただける方が一人でも増えていけば、本校の発展につながり、さらには地域社会の活性化につながるものと私は思います。

今後も引き続き、昭和第一学園のために微力ながら活動して参ります。よろしくお願いいたします。



法話後 佐藤秀仁貫首との記念写真



自動車研究部 ホンダエコマイレージ全国大会 応援バスツアー 開催

令和7年10月12日（日）

参加人数：39名

場 所：栃木県 モビリティリゾートもてぎ

結 果：第6位入賞

参加者感想

秋晴れの澄んだ空が広がり、まさに応援日和でした。昭和第一学園から出走した2台は、どちらも洗練されたデザインで、走る姿がとても凛々しく、応援スペースを通るたびに皆で応援タオルを振って大きな声援を送りました。レース後は選手の激励のためにピッチへ移動し、安藤会長より激励金が贈呈されました。部員や顧問の先生方の熱い想いに触れ、自動車を間近で見るとその技術と精巧さに改めて感動しました。

お昼には美味しい天ぷらそばをいただきながら、部員のご家族ともお話する機会があり、自動車研究部への深い愛情を感じることができました。

午後は益子焼センターに立ち寄り、帰りのバスでは和やかな歓談が続き、車内でそれぞれがリラックスした時間を過ごしました。初めての参加でしたが、心に残る素敵な一日となりました。

橋口 明果



自動車研究部の部員

自動車研究部の部員は1年生2人、3年生3人の5名しかいないにもかかわらず、ホンダエコマイレージ全国大会に毎年出場し、上位入賞を果たす実力ある部です。

クリエイティブな技術面を磨き上げ来年は更なる上位入賞を目指し頑張っています。そして部員が増えることも期待しています。

（生徒着用の青色の帽子とブルゾンは（株）アベックエンジニアリング様が提供してくださいました。上部写真）



第1回 親睦ゴルフ大会開催

令和7年10月1日（水）

場所：飯能グリーンカントリークラブ

安藤会長のお声掛けに総勢86名の参加があり盛大に行われました。

集まった協賛金のうち50万円を学校に寄付いたしました。



安藤会長 バスの中でご挨拶



モビリティリゾートもてぎ観客席



ピッチでの集合写真



パーティの様子

さくら会主催 講座・手作り教室

KIKUYOU-RELATIONS

菊葉リレーションズ

プリザーブドフラワーアレンジメント

6月14日（土）講師：三浦 由美先生

プリザーブドフラワーのバラを解体して大きな開いた花を作る方法を教わりました。配色選びが楽しかったです。



クラフト教室

11月15日（土）講師：新屋敷 誠先生
渡辺 文恵先生

工学科時代のパソコン操作で木を切り抜く機械を使って、時計をデコレーションしました。

限られた時間でしたが、作品と向き合い、おしゃべりしながら楽しく過ごすことができ好評でした。



「10歳若返る メークアップ教室」

7月19日（土）講師：タカバタケ イクミ先生

些細なことで変わっていくメークの不思議を体験しました。



陶芸教室

8月2日（土）講師：江川 夏樹先生
3日（日） 田中 駿先生
氷室 幸子先生

保護者会員の方ではびねりでコーヒーカップを、さくら会のメンバーはろくろで思い思いの作品を作りました。



釉薬付けの様子

素焼き前の作品

予告

「アイシングクッキー作り」

令和8年2月28日（土）

写真は前回の例です。

1月中旬に募集を始めます。

乞うご期待



新入会員 紹介

令和7年11月30日現在
敬称略グループ別50音順

〈個人〉

磯部 仁	芝田 勝	橋口 明果
市川 和義	嶋下 貞夫	浜野 章保
倉田 俊広	澁澤 正一	平原 保男
近藤 義助	菰沢 勝彦	渡邊 栄次郎

〈法人〉

(株) M&Nホールディング
西武信用金庫幸町支店
(株) 長井工務店



発行：昭和第一学園後援会
〒190-0003 東京都立川市栄町2-45-8
昭和第一学園内
電話 042(536)1611 Fax042(537)6880
URL: <http://sdg-bc.com/>

